

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1165 号	氏 名	浅 井 由 佳
論文審査担当者	主 査 中 沢 洋 三 副 査 駒 津 光 久・関 島 良 樹		
(論文審査の結果の要旨)			
<p>神経性やせ症は、持続性のカロリー摂取制限、体重増加や肥満になることへの強い恐怖または体重増加を阻害する行動の持続、体重や体型に関する自己認識の障害、の3つの特徴をもつ摂食障害である。</p> <p>神経性やせ症の患者は、特徴的なパーソナリティプロフィールや自閉傾向を持つことが報告されているが、その特性が病前から存在するのかわかっていない。</p> <p>本研究の目的は、1) 神経性やせ症のパーソナリティプロフィールおよび自閉傾向を調査すること、2) 健常群の自閉傾向およびパーソナリティプロフィールが摂食態度に与える影響を調べることである。神経性やせ症 22 名、健常女性 94 名を対象に摂食態度調査票、気質性格検査、自閉症スペクトラム指数を用いて評価を行った。</p> <p>その結果、浅井は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 神経性やせ症では、先行研究と同様に気質性格検査において損害回避の高さ ($P<0.001$) を認め、新奇性探究 ($P=0.006$)、報酬依存 ($P=0.009$)、自己志向性 ($P<0.001$) の項目では得点が低く、摂食態度調査票、自閉症スペクトラム指数も有意に高値であった ($P<0.001$)。2. 健常群において、神経性やせ症に類似したパーソナリティプロフィール (気質性格検査における高い損害回避と固執、低い新奇性探究、報酬依存、自己志向性) や自閉症スペクトラム指数の高値が、制限型の摂食態度と関連していた。 <p>これらの結果より、神経性やせ症の自閉傾向およびパーソナリティプロフィールは、病前から摂食態度に関連しており、神経性やせ症を発症する危険因子となる可能性が示唆された。神経性やせ症の危険因子を明らかにすることは、リスクが高い者を対象とした、より効果的な予防活動を行うための手助けとなり得ると考えられた。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			